

図書館だより



1月号

2025年1月7日
安田小学校図書館

あけましておめでとうございます。
みなさん冬休みのあいだに、たくさん本をよんで「おもしろいな」「すきだな」とおもえる本にであうことができましたか？

まだまださむい日がつづきます。休み時間は図書館にきて本をよんだり、のんびりしたり、自分の時間を楽しんでください。



※自分でヘビのおりがみをおりたい人は、図書館でいっしょにつくりましょう。おりがみをもってきてください。

しんしゅん
新春
おみくじ

としょかん さんかく
図書館で三角くじをひこう！！

やす じかん ほん
休み時間に本をかりると、くじを
1枚ひくことができます。あたり
がでたら、えと
をプレゼントします。

朝と放課後も本を借りられます

3月までの期間限定ではありますが、5・6年生はセルフ貸出を使って朝(8:00~8:20)とそうじの時間も本をかりることができます。休み時間になかなか図書館に来ることができない人は使ってみてください。



保護者の皆様へ《本の返却について》

冬休み前の保護者貸出では、2日間で250冊を超す貸し出しがありました。また、多くの保護者の方と、読書の方向性やおすすめの本について話をすることができました。家庭で読書教育に心を砕いてくださっていること、あらためて感謝申し上げます。本の返却は1月14日(火)です。お子様を通してご返却ください。

干支(えと)の本



今年の干支(えと)はヘビ。ふしぎなすがたを、神や魔物になぞらえられてきた生き物です。

『ヘビのひみつ』

内山りゅう/著・写真 ポプラ社



1年生にもわかりやすい言葉と写真で日本にすむ何種類かのヘビの生活を紹介します。およんだり、魚をつかまえたりするすがたにもおどろかされますが、アオダイショウがニワトリの卵を丸のみする場面では、あまりにやわらかいヘビの体の不思議さに息をのんでしまいます。

『ハブの棲む島』

伝説のハブ捕り名人と奄美の森の物語』

西野嘉恵/著 ポプラ社



鹿児島県の南にうかぶ奄美諸島。ここにはハブという大きな毒ヘビがすんでいます。この島で、薬や研究に役立てるためにハブをつかまえてきたハブとり名人の南さんに取材をして書かれたのがこの本です。南さんの言葉からは、奄美の森とそこにくらす生き物への愛がひしひしと伝わってきます。

『道成寺 大蛇になった乙女』

片山清司/文 白石皓大/絵 BL出版



好きになった人に裏切られた姫が蛇になるという、恐ろしくも美しい安珍清姫伝説。お寺の鐘に巻きついた蛇が、鐘の中にかくれた人を焼きこらすという話は有名です。その伝説を下じきとした能「道成寺」が読みやすい絵本の形になりました。ここから興味を広げてほしい一さつ。

『世界のともだち』

メキシコ 織物の町の少女リセット』

長倉洋海/写真・文 偕成社



タコスや死者の日で有名なメキシコの国旗にはある伝説に基づいてヘビが描かれています。本は世界の国の子どもたちの暮らしを紹介するシリーズです。住人の99%がおりもの関係の仕事をしている小さな町で、のびのびとくらす女の子リセットの毎日をのぞいてみましょう。

『アキンボと毒ヘビ』

A・マコール・スミス/作 もりうちすみこ/訳
広野多珂子/絵 文研出版



アキンボはアフリカにすむ生き物が大好きな男の子。今回はおじさんが働く町のヘビ園でかつやくする話です。ヘビ園には人を殺すほどの毒を持ったヘビもいますが、アキンボはたくさん勉強してエサやりや毒しほりも大人顔まげにこなします。そして、なんとヘビ狩りの助手までもつとめることになったのです！

『虹いろ図書館のへびおとこ』

櫻井とりお/著 河出書房新社



「三、だれにもなんにもいわない。」クラスで突然いじめられるようになった転校生のほのかがかが転がりこんだのは町の図書館だった。いつ来てもいいし、何もなくてもいい。顔が半分緑色の「へびおとこ」イヌガミさんがいる図書館で、6年生のほのかが自分の居場所をみつめる物語。